

【熊本の心推進協議会賞】

熊本地震で得たこと

熊本市立富合中学校 2年 林田 結美

4月14日、16日に大きな地震が私達が暮らす熊本をおそいました。これからどうなるのか、不安と心配で頭がいっぱいでした。私の父は市役所に勤めていて前震で市内の小学校に避難所ができたため、仕事でそちらに行っており、16日の本震の時は家にいませんでした。本震が起こったとき、私達家族はとても動揺して、家から飛び出し、近所の家に避難しました。そして、ニュースで津波が来るかもしれないと聞いて、高台にある公共施設に避難しました。その施設で、近所の方から非常食をいただいたり、服を貸していただいたりもしました。とてもありがたく、心強かったです。

本震の日の翌日には家の近所にある公共施設に行きました。そこにはたくさんの人達がいて、食べ物や衣服などが配られたりしていて、本当に地震があったんだと実感しました。私は、数時間列に並んで、パンを一個もらいました。家族と食べようと持って帰る途中に、小さな赤ちゃんをずっとだっこしている女の人を見かけました。私は、「こんな状況なら食べ物をもらいに行くのも大変だろうな」と思いました。私は、「これ、良ければどうぞ」とパンを女の人に渡しました。女の人は何度も「ありがとう」と笑顔で返してくれました。私はなんだか恥ずかしくなっておじぎをしてその場を立ち去りました。長い時間並んでやっと手に入れた食べ物だったけれど、喜んで感謝してもらえて、役に立ったと思うと、自分がしたことは良かったんだと思えました。

私はあの熊本地震を経験して、人の温かさ、優しさを感じることができました。避難所になっている公共施設には全国からたくさんのボランティアの方がいて、たくさんの物資も届けていただき、多くの人から応援してもらっていることを実感して元気をもらえました。私も、人を気づかえる優しい心を持ち、目配り、気配りができる人になりたいと思います。

私が感じたもう一つのことは、母のことです。本震の時に父はおらず、地震後の長い間、父は通常の仕事と避難所の仕事でほとんど家族と一緒にいることができませんでした。母は私と姉と当時2歳の弟を抱えて、本当に私達以上に怖くて不安だったと思います。けれども母はそんなことを全く私達子供に見せずに、地震のときも、避難所生活の間も、私達のことを一番に考えて、守ってくれました。地震を経験して、母の本当の強さと優しさ、私達への愛情を知ることができたと思います。そして、また熊本地震のような災害が起こった時に、今度は私が家族を少しでも助けることができるように、また熊本以外で災害が起こった時は、私達がボランティアの方などに助けていただいたように、何かの形で手助けをして私が感じたような人の温かさ、優しさを感じてもらいたいと思います。